

おもてなしの心を忘れない誘客活動

～ 五島へ来てくださるお客さまへ～



社団法人五島市観光協会

事務局長 瀬崎 繁巳

1958年（昭和33年）生れ
長崎県漁連福江出張所勤務を経て
2000年（平成12年）より当協会入社

はじめに

私は、平成12年2月に五島市観光協会に着任いたしました。以前は、長崎県漁連福江出張所にお世話になっていまして、朝早くから出勤し各漁協の漁模様を取り、現場での積み込み作業に追われる毎日でした。一番思い出に残っているのは、春先出勤時に玄関を開ける前から電話が鳴っていて慌てて取ると鼻息も荒く組合の職員からで、「入ったよ、入ってるよ、ぶ、ぶ、ぶりが入ってるよ」の電話でした。

私達の仕事は鮮魚をいかにして保ち、いかにして高く売るかで慌てました。さっそく、氷と箱と運搬車の準備にとりかかり現場へと向かった訳です。しかしここで慌ててはならないことが肝心のぶりの数と重さです。定置網の漁船団には必ず入ったぶりの数を読み取る名人がいて、網の上から箱メガネで海中を覗き込み、うようよ泳ぐぶりの大群の濃さと海中の色の濃さとで大体の数を当てま



五島市の観光名所

す。確実な情報を取るのですから、そりゃあ見事です、5,000本と言えば5,000本前後！10,000本と言えば10,000本前後！この技だけは誰にも真似できません。長い経験が物を言います。名人のおかげで私達もぶりのサイズを聞き、箱のサイズと数を決めて配車が出る訳です。

業界では、10,000本を越える事を「万越（まんごし）」と言います。上五島では、豊漁を

祝って今日でも「万越太鼓」と言う伝統芸能が残っています。情報を聞き間違えたら何百万、何千万の赤字を出します。緊張が走るのも無理もないです。反面、たった一晩で何百万、何千万と収益があがるのです。

いつの間にか、ぶりが入る時期が来て朝早くから電話が鳴っていても、慌てなくなっていました。漁連勤務が10年を超えていたのです。

漁協も全国平成の大合併の煽りを受け、合併が進み、自力で出荷が出来るようになり、福江出張所の仕事が少しずつ減っていき、この先どうやって生計を立てていったらいいのか悩んでいた時、たまたま観光協会の募集があり運良く採用していただきました。

もともと、観光の仕事に興味があったので採用を頂いた時は嬉しくてたまりませんでした。が、同時に活気ある水産の仕事を離れるのも寂しい気持ちで一杯でした。

1. 島へ来てくださるお客さまへ

さあー観光協会採用初日、着慣れないスーツを着ての出勤！ 職場には女性も多く、丁寧な言葉での「おはようございます」、私にとっては「おはようございます」の一言がむずかゆく、舌を噛みそうでした。なぜなら水産場では「うっす」で通用したのです。仕事柄急を要することが多く、積み込みでもリフトを回したり危険な所に上ったり、時には荒々しい漁師さんの対応をしたりで、まさしく男の世界でした。丁寧な言葉でしゃべる事そのものが恥ずかしかったのです。

恥ずかしさをこらえ、売店にも立ちました。今度は「いらっしゃいませ」の言葉が苦しくて知人でも来ようものなら隠れることもしょっちゅうでした。

私は外から見ていて、“いいなーいろんな所へ行けて、いろんな方と巡り会えて”、と華やかで楽しそうな感じを受けていました。とんでもなかったです。売店の目の回るような忙しさ、観光地の問い合わせの鳴りっぱなしの電話、観光窓口は問い合わせで殺到し、繁忙期の夏の協会は地獄にさえ思える忙しさで、女性軍が本当に頑張っていました。いろんな方に会えるなど、私は楽観していたのです。

協会の仕事の基本は島外からの誘致事業が主です。年に福岡、大阪、東京と宣伝営業に回るのですが、事前のアポを取る作業、現地での段取り、慣れない電車での移動から移動。島では100メートル先でも車移動なので、現地での歩きが苦痛に思えました。それより、島で生まれて島で育ち40数年生きてきた私にとっては、ギューギュー詰めの電車がたまらなく、逃げ出したくなるような気分でした。いろんな所へ行けるなど、これも楽観していました。

さて、島外への誘致事業だけではなく島へ来てくださった（くださった、こんな言葉は昔は使えなかった）お客様へのおもてなしが大事なんです。

2. 20年間走り抜けた タヤけマラソン大会

協会は沢山のイベントをかかえています。代表的なのが「五島列島 タヤけマラソン」。昨年21回目を迎えた訳ですが、21年前の1回目はたった86人の参加だったと聞きました。それこそ島を挙げてPR活動を全国展開したのですが、これだけの人しか応募がなかったそうです。それでもいつの日か大勢の参加者が溢れることを夢みて、当時の永治事務局長をはじめ関係者一同が汗を流し頑張ったおかげで、年々参加者が増え、昨年21回目は2,000人を超えました。大会前は色々な問い合わせで事務局は本当に大変です。それと夜中までかかる準備作業、当日のサポートなど、また夜中までの後片付け、翌日の片付けと清掃などなどスタッフは体がボロボロです。



タヤけマラソンスタート直後の様子

しかし、これもあれも“おもてなし”の心なのです。この心が継続できたからこそ、ここまでBIGな大会になったのではないのでしょうか。きついばかりではありません、感動があるんです。若者達がグループでニコニコし

て走ったり、アベックで楽しそうに走ったり、ご高齢の方が遠方より参加しゴールにはご高齢の奥様らしき方が拍手で出迎えたり（きつと年を取っても妻の前ではヒーロー振りを見せたかったのでは？）、体に障害がある方の完走ゴールシーンなど感動しまくりです。あースタッフとして頑張ってた良かったなと思う瞬間です。



タヤけマラソン給水ポイントの様子

3. 五島が誇るアイアンマン大会

アイアンマン大会も素晴らしいです。「鉄人」の意味はわかるのですが、トライアスロン大会は、全国各地で開催されていて、五島大会が一番のロングランだと聞きびっくりいたしました。水泳3.8キロ、バイク120キロ、ラン42.195キロの超過酷なレースです。

それに毎年世界大会がハワイで9月に開催される訳ですが、その予選の開催だと聞かされた時はまたびっくりでした。

第1回目を開催するにあたり関係者で綿密な打ち合わせが何度も何度もなされました。その中でスイム会場（ブイの設置など）の設

営の責任者を私が任されたのです。そうです、元水産にいた関係で海には詳しいだろうと白羽の矢が立ったのです。海は海でも魚のことならそこそこ詳しいと自分でも自負してましたが、ブイの設置など正直自信がありませんでした。



アイアンマン大会ゴールの瞬間

しかし、会議の場で元海の男として指名を受けた以上断ることもできず、顔で笑って「やりましょう」と引き受けたのです。協会に入って2年目の事でした。

3.8キロメートルのコースをどのようにして測量し、どのようにして海上に浮かべればいいのか夜も眠れませんでした。どうしてもアイデアが出なくて悩み苦しみました。そんな時、水産時代のぶりが入った定置網を思い出したのです。なるほど定置網の要領で作ればいいと閃き早速、富江町（スイム会場）の定置網船団の船団長の家へ行き色々と相談をしました。最初は私を笑顔で迎えてくれたものの、アイアンマンの話にはなかなか首を縦

に振ってもらえず、ようやく了承を得た時には時計の針が夜中の2：00を回っていました。

あんなに不安だったのに光が見えたのです。まず問題の測量は衛星を利用したGPS（位置を知らせる）を使っただけの測量をし、その地点に2箇所ブイを打ち込む。砂浜からその2点に向かってロープを張る。しかし張ったロープをどうやって固定するかが問題でした。結果10本の碇を打ち込めばいいと結論が出て、心の中で安心しました。

大会7日前に準備した4000メートルのロープ、砂袋800ケ、大型ブイ10ケ、小型ブイ300ケ他を船団に積み込みいざ出発！ 仕事は8：00から夕方6：00まで、丸一日がかりの作業でしたが、なんとか無事に終えることができました。船団も疲れきっていました。私は船団長を初め皆さんに心の底からお礼を言い現場を後にしました。

その日の夜は、満足感でいっぱい嫁に自慢話の連発をくらわせました。いつの間にか嫁は飽きたのか、その辺にはいなくなり私も疲れたので眠りに入っていました。

次の日に事件は起きたのです。昨日の頑張りと満足感を胸に現場を見に行ったところ、なんとコースが大きくずれてしまっていたのです。なぜだろう？ あれだけの碇をぶち込んだのになぜこんなに歪んでしまったのか理解に苦しみました。

よくよく考えて見ると潮が大潮で干満の差が一番大きく出ることを忘れていたのです。元海の男として失格です。まさしく陸に揚がったカッパでした。



スイム会場の様子

私は又船団長のところへ行き深々と頭を下げ、やり直しのお願いをしました。船団長は快く引き受けて下さり、船団を集め一日がかりでやりなおして頂きました。今度は干満を考えて、逆に大きくコースからわざと外し設置しました。

その夜は、嫁に冗談も言えず期待を胸に眠りにつきました。翌朝夜明け前に目が覚め、いても立ってもいられず現場へ向かったのです。

遠く東の空が朝焼けだした頃、ぼんやりとコースが私の目に飛び込んできました。おもわず「やった!」とつぶやきました、真っ直ぐにコースが張られていたのです。嬉しかったですね! 苦勞が報われた瞬間でした。



大会参加者と地元住民のふれあい

大会当日選手達の囁きが聞こえて来たのです。「きれいに出来ているね」と…。嬉しくて嬉しくてたまりませんでした。私は祈りました、どうか安全で事故がないようにと。

おわりに

昨年、アイアンマン大会も7回目を迎え、外国選手を含め約800人の参加を頂いております。お蔭様でスイムを含め一度の事故もありません。選手達の中に友人もでき、楽しく“おもてなしの心”を忘れずに頑張っています。

今年も第8回目を迎えるにあたり、スイム会場作りにヒシヒシと心を燃やしております。夕やけマラソン、アイアンマン他沢山のイベントを抱えておりますが、基本の“おもてなしの心”でがんばりますよ!!

最後に、五島列島は本土とのアクセス面で種々課題を抱えていますが、誘客活動に全力を挙げて頑張っています。原油の高騰で更なる不景気に拍車がかかることが予想されますが、高いお金を出してでも五島へ足を運んでください。美しい自然と人情豊かな島民が“おもてなしの心”でお出迎えいたします。

つきなみですが、皆々様の今後益々のご健勝をお祈りし、ペンを置きます。

年間イベント一覧表（平成20年度）

タイトル	期間・日時	場所・会場	内容
五島鬼岳で遊ぼう 子ども自然公園大会	5月3日(土) 雨天時 5月5日(月)	五島市 鬼岳園地	毎年5月3日に全山芝生の「鬼岳」で、五島独特のバラモン風揚げの他、クラフト教室、草スキー、ミニ・クロスカントリーなど各種のイベントが繰り広げられます。  
アイアンマンジャパン	6月22日(日)	福江島全域	スイム3.8km（富江町多郎島海水浴場）、バイク180.2km（福江島内）、ラン42.195km（五島市鬼岳周辺）の計226.2kmで争われるトライアスロン大会。毎年10月ハワイ島で行われる世界大会への出場権を目指して、13カ国17カ所で行われている大会の一環として開催されています。  
第22回五島列島 夕やけマラソン	8月30日(土) 予定	五島港公園	毎年8月の最終土曜日に開催される、日本で最後に沈む夕陽を背に走るハーフと5Kのマラソン大会。レース後は五島牛のバーベキューもあります。  
福江みなとまつり	10月3日～ 5日の予定	福江地区 商店街	五島の歴史や民話を題材にした、迫力あるネプタ10数台が登場します。市民総踊り、花火大会も行われます。  

タイトル	期間・日時	場所・会場	内容
第24回長崎五島 ツーデーマーチ	11月中旬 の予定	五島市	日本島めぐりマーチングリーグ加盟。「五島列島」の景勝地を2日間約30キロにわたって歩く。
チャーチ イルミネーション in 五島	12月1日(月)～ 12月25日(木) の予定	五島市 新上五島町	クリスマスの雰囲気をより一層盛り上げるため、上五島では各教会が、下五島では石田城が華やかにライトアップされます。  
最後の夕陽鑑賞会	12月31日(木)	玉之浦町 大瀬崎灯台	12月31日に、その年の最後の夕陽を見ます。年越しそばがふるまわれ、鑑賞会に参加した人には夕陽鑑賞証明書が発行されます。 
第15回五島椿まつり	2月初旬～ 3月初旬 の予定	島内各地	「五島椿まつり」では、釣り大会、久賀島の椿と巨木とつばき林を訪ねるツアー、武家屋敷通り「しまのかがり火」、五島つばきマラソンなど椿にちなんだ多彩なイベントが行われます。  

「IRONMAN JAPAN GOTO NAGASAKI」

◎場所 五島福江島

◎日時 平成20年6月22日(日) 7:00～22:00

◎内容 スイム 3.8km (富江町多郎島海水浴場)

バイク 180.2km (福江島内)

ラン 42.195km (五島市鬼岳周辺) の計226.2km で争われるトライアスロン大会。

毎年10月ハワイ島で行われる世界大会への出場権を目指して、13カ国17カ所で行われる大会の一環として開催されます。

◎お問合せ先 アイアンマン大会事務局 TEL 0959-75-0850

◎関連ホームページ <http://www.ironmanjapan.com/>